

太陽光関連2社合併完了による 新生“ハンファQセルズ”誕生のお知らせ

- ハンファ・ソーラーワンの株主総会でハンファQセルズとの統合を決議。
- 世界最大規模の3.28GWのセル生産設備を保有する企業へ

ハンファQセルズジャパン株式会社（本社：東京都港区、代表取締役社長 キム・ジョンソ）の親会社、ハンファグループ（本社：韓国・ソウル、会長：キム・スンヨン）は、グループ内の太陽光関連企業2社の合併について、一連の手続きが2月6日をもって完了しましたことを発表しました。

これにより、新生「ハンファQセルズ」（正式社名：Hanwha Q CELLS Co., Ltd. 米国ナスダック銘柄コード：HQCL）は、世界1位*のセル生産設備を保有する世界トップクラスの太陽光メーカーとなりました。

新ハンファQセルズは、ドイツの先進的な技術力や革新的な研究開発を一層強化するため、ドイツ・タールハイムを引き続きR&D本社とし、経営機能はハンファグループとの連携を最大限活かすため韓国・ソウルに構えます。また、ドイツの技術力をベースにマレーシア、韓国、中国など多角化した生産拠点及び、世界に広がる販売網を通じ、真のグローバル企業としての機動性を最大化する体制を取ることができます。更に、以前からハンファQセルズがもつ強みでもある、発電事業（EPC、O&M、発電所運営）も強化し、収益性を拡大してまいります。既に現在、ハンファQセルズは世界で約2GWにのぼる太陽光発電プロジェクトを推進しており、日本、ヨーロッパ、北米、中国など、太陽光市場が急速に成長している市場での影響力を拡大しております。

ハンファQセルズCEOとなるナム・ソンウは以下のように述べました。「このたび、世界市場において力強い存在感をもつグローバル企業が誕生しました。“Engineered by German”に象徴される高い品質と研究開発力に基づく製品群を強化すると同時に、EPC（設計・調達・施工）、プロジェクトファイナンスなど、ダウンストリーム分野の専門性をグローバルに展開していくことが可能になります。生産設備の規模を活かし、コスト競争力の向上と強固な財務基盤で、世界中のお客様によりよいサービスを万全の体制でご提供してまいります。」

*各社公式発表より算出

報道関係お問い合わせ先

ハンファQセルズジャパン株式会社

広報担当：小林美砂

TEL 03-5441-5928

EMAIL info@hqj.co.jp

【ハンファグループについて】

1952年に設立された韓国の最大手企業のひとつであり、国内企業51社と113の海外現地法人から構成され（2014.1 現在）、三つの事業部門（製造・建設、金融、サービス・レジャー）を展開している。60年間にわたる歴史の中で、製造・建設部門は、基礎化学製品、新素材から不動産開発、太陽エネルギーソリューションまで広範囲にわたるサービスを提供している。銀行、保険、資産管理、証券を取り扱う金融部門は、ノンバンク系金融グループとして韓国で2番目の規模であり、サービス・レジャー部門は、小売・リゾート業務などを通じてプレミアム・ライフスタイルを提供している。2010年より太陽光ビジネスに参入、中国ソーラーワンの株を取得後、2012年にドイツQセルズを買収し、ビジネスを拡大。2015年この2社を統合し、世界展開を加速させている。

<http://hanwha.com/jp>

【ハンファQセルズについて】

2012年ハンファグループが買収。2014年にはヨーロッパ企業の中で出荷量が一位となる。高品質の太陽光セル・モジュールの生産とシステムソリューションビジネス（EPC・O&M、プラント開発・施工）において豊富な経験がある。ドイツ、マレーシア、日本、アメリカ、韓国、フランス、トルコ、チリ、オーストラリアの販売網を通じて全世界に製品を販売している。2015年2月6日、同じくハンファグループのハンファ・ソーラーワンとの合併を通じ、セル生産量3.28GWに。

<http://www.q-cells.com/>

【ハンファQセルズジャパン株式会社について】

1984年に韓国最大手企業であるハンファグループの日本法人として設立。2014年3月に設立30周年を迎えた。太陽光発電関連事業（太陽光モジュール輸入販売、IPP事業）をはじめ化学品、鉄工、機械・設備、自動車部品、IT関連機器等、多分野にわたる基幹産業のアジア諸国間での輸出入業務と日本市場での販売事業を展開している。太陽光事業に関しては2013年度外資系太陽光モジュールメーカーとして国内出荷量で1位（520メガワット）となる。

www.hanwha-japan.com